

龍源寺報

平成28年 春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原信樹
佛母寺住職	松原覚樹	
正福寺住職	松原行樹	
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

春彼岸におもっ

松原 信樹

おそらく科学技術の進歩というものは、宗教の教えを必要とせず、宗教と無関係なところから出発してきているように思います。つまり、仏教の中にある教えに従うのではなく、「自分自身が、一つ一つの事柄を判断して、実際に良い結果が出るように、自らが工夫する」と、学校で教えられ、実際、私もそれが正しいと思つて、学生時代を過ごしてきたように思います。

ところが、僧侶になり二十年。そのような事では、答えのだけせないことが、たくさんあるように思えてきました。科学がこれだけ進歩し、生活が便利になつても、現代人には心の不安が未解決のままです。

例えば、情報というのは、テレビあるいはパソコンに映し出されたものであると多くの人は思います。つまり、電波で伝えられたものを、頭で解釈することに慣れてしまつて、電波で伝えられたものが情報だと思つている人が多いようです。実際はそうではありません。

また、最近では、就職をしない若者も増えています。世の中が不況でまともな就職先が減つ

ているから、仕事が無いともいわれませんが、それは、本質を見誤つているように思います。本当は、働きたいという意思が、若い人の中で希薄になつたのではないかと思うんです。それは、豊かさの裏返しなのかもしれません。

現代の日本は、歴史上、科学技術が発展し、誰もが、物質的な豊かさを味わつている時代であるように思います。それでいて、誰もが何かを求めていきます。自分だけ何かが足りない不安になつたり、孤独を感じたりします。そういう時、私は、一日に一回できることを決め、それは何でもいい、心をこめて何かをする。例えば、家族のために何かを作するのもいいし、買い物をするのもいい。どんな些細なことでもいいから、一つだけ決めて、それができたら満足するようにしています。自分にとっての豊かさとは何か。いざ、自分が窮地に立たされたとき、自分はどうすべきか。情報というものにまどわされず、それぞれの人が、自分で考えなければいけない時が来ているようです。

私は、そのようなことを思う時、何も無いところから、自分で考え、苦しみながら答えをだしていく、体験に裏打ちされた、平林寺での修行時代の生活を思い出します。

寄 付

金五万円也 和久洋士殿

金壹万円也 梁 茂樹殿

観音様に

金五万円也 森山英一殿

日月庵坐禅堂寄付

金百万円也 松原良樹殿

山本玄峰老師扁額 師岡恒夫殿

ありがとうございました

.....

芝仏教会「花まつり」おちごのおすすめ

龍源寺で花まつりを行います。稚児行列を行いますので、幼稚園くらいのお孫さん、お子さんがいらつしやいましたら、ご参加ください。

○四月十日(日)午後一時までに龍源寺集合

○三月三十一日までにお知らせください。

○会費三千円

春彼岸会

左の通り行います。ご家族そろってお参りください。

一、三月二十日(日曜日・午前十一時より)

一、読 経

一、法 話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

ごあんない

三月二十一日(月・祝)、仏教伝道教会で法話と椅子坐禅体験を行います。

演題..「禅と書道」

時間..午後13時30分～15時30分

講師..松原信樹(龍源寺第十八世住職)

武田双雲氏(書家)

会場..仏教センタービル 東京都港区芝4-3-14

TEL..03-3455-5851

参加費..1,620円

龍源寺の歴史について(五)

松原 泰道

龍源寺を開基された奥平昌成公の数代前の先祖に家昌公という方があります。

公は宇都宮城主で、母は有名な亀姫(家康の女)です。父の信昌公は加納の城主でしたが、神の夢告通りに宇都宮に封ぜられたと伝えられています。

宇都宮入城のはじめ、古今の名僧物外(もつがい)和尚に帰依して同地に興禅寺を建てて、常に禅のおしえを学びましたが、臨終にあたり、和尚に

花も根に

かえるといえは

われもまた

生れぬさきの

里にかえらん

と、辞世を呈しました。さすがに平素、和尚に参禅しただけの力量が感じられます。

ところが物外和尚は「美事！」と賞めるどころか

「ぐずぐず言わずと死と取り組むがよい」と厳しくおしえました。公は、深くうなずくと静かに息を引きとったといわれます。

一生の最後にあわて苦しむのは、ふだん心がまえが出来ていないからだといわれます。その心がまえが出来ていれば、りっぱな辞世も作れるでしょう。普通なら家昌公の態度は美談として讃えられるところです。

然し、禅の巨匠から見ればそれも「未熟」として許されなかつたのです。苦しい死に直面した時、何も思わず、求めずに、ただひたすらに死を見つめ、死と対決してゆけ、と簡潔にしかも親切に提示せられた物外和尚の一言に、公ははじめて生死を脱却することが

出来たのです。

微笑を浮べて生を閉ずることはむつかしいが更にその一線を超えて、苦しみを、すなおに苦しみとして受けとって去ってゆくのが、ほんとうの「従容(しようよう)の最後」であることを公はその刹那に悟ったのです。

ふだんの参禅が最後に花を開き、実を結んだのです。いわゆる「行いすました」修養の積徳を超えて、すなおに、淡々と、氣ばらずに、肩をはらずに、「偉大なる平凡・充実した常識」こそ禅の風光なのです。その域に達するには不断の努力が必要です。

同じ辞世でも「偉大なる平凡」の背景がないと戯論に過ぎないことを公は体得すると共に、貴い教えの遺産を残されたのです。



柳緑

花紅

春彼岸会を迎えます。境内の梅の花がきれいに咲いています。皆様お変わりありませんでしょうか。▼先日、葛谷俊夫さんが百二才でお

亡くなりになりました。葛谷俊夫さんの父親は、泰道和尚の父の祖来和尚の兄で、私の親戚にあたります。昨年、十二月に、先祖のことを教えてもらいに、岐阜羽島にいらつしやる葛谷俊夫さんを訪ねたばかりでした。葛谷俊夫さんの弟が、三才から龍源寺にいて、昭和十九年七月に、サイパンで戦死した葛谷醇一さんになります。ご冥福をお祈り致します。▼五月十五日より三十日まで、妙心寺で行われる高等布教講習会に参加することになり、ご法要を営まれる方は、五月上旬か、六月上旬にお願い致します。▼お寺の周囲もマンションの建設などで、変わりつつあります。代々継承してきた静謐な境内の環境を、お檀家さんのためにも、維持していきたいと思っています。▼四月十日、芝仏教会の花まつりの行事

を龍源寺で行います。花まつりは、お釈迦さまのご誕生をお祝いする行事です。行事の中で、稚児行列を行いますので、ご希望の方がいらつしやいましたら、龍源寺にご連絡お願い致します。おそらく、龍源寺で花まつりを行うのは、創建以来、始めてのことだと思えます。五月九日(月)に臨濟宗妙心寺派花園会主催の全国女性部東京大会が舞浜のヒルトン東京ベイホテルで開催されます。平林寺の住職のお話、夕食懇親会などが催されます。ご参加希望の方は、お知らせください。▼母は、四月三日、千葉県富津市の仏母寺で、春の茶会を行います。少し膝の痛みなどを抱えており、通院する日が多くなりましたが、気持ちはいつも元気でいてくれます。毎月十八日の観音堂でのお経にも、お参りにきてくださいと申しております。妻、亜矢も元気にしており、七月のお施餓鬼には、何か嬉しいご報告ができそうです。二番目の仏母寺住職の覚樹もアメリカで元気に頑張っているとのこと、三番目の正

福寺住職の行樹も、北鎌倉の円覚寺派の仕事で活躍中だと、風の噂で私の耳に入ってきています。第二人に関しては、なぜか、第三者を通して話しが聞こえてくることが多いようです。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、僧侶がいらないとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思います。葬儀社も信頼のある葬儀社を紹介させていただきます。丁寧な仕事で皆様に喜ばれています。渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。最近、墓地の改葬が増えているようです。又、若干ですが、墓地もございます。▼三月二十日、春分の日、午前十一時より春彼岸会を厳修致します。どうぞ、皆様ご家族でお参りください。三月十九日午後一時より、ちらし寿司のお野菜の刻みを行います。お手伝いいただける方、宜しくお願い申し上げます。(信樹)